1. 評価結果概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	4071200440		
法人名	医療法人 政裕会 ときつ医院		
事業所名	グループホーム 楽居		
所在地 （電話番号）	福岡県福岡市西区内浜２－６－７－３０１ （電 話） ０９２－８８２－３３２１		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町４－６ 北九州ビル８階		
訪問調査日	平成21年12月3日	評価確定日	平成22年1月20日

【情報提供票より】（平成２１年１１月２０日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 10 年 1 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	22 人	常勤 3 人，非常勤 19 人，常勤換算 6 人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 3 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	90,000 円		その他の経費（月額）	水光熱費 10,000 円
敷 金	有（ 500,000 円）			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 500,000 円）		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり 30,000 円			

（4）利用者の概要 （11月20日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	7 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86,1 歳	最低	63 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ときつ医院・白十字病院・たなか歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム楽居」は、プラマリーケアを担う母体医院やデイサービス、バリアフリー賃貸住宅からなる都市型地域ケアセンター「ベースキャンプ楽居」の３階に位置している。医療との密接な連携により、開設時よりターミナルケアに取り組んでおり、住み慣れた環境の中で、最期まで穏やかに暮らし続けることができるよう、日々の暮らしを支援している。開設して１３年目を迎える歴史の中で、職員の子ども達が日常的に訪れ、入居者の方々とふれあいながら成長していく姿があり、日々の暮らしに潤いを与えることにもつながっている。コミュニティの中で、出来ない事を助け合うという観点を持ちながら、福祉・医療の拠点としての役割りを担おうとする事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価以降、プライバシーの確保（個人情報保護）への改善に取り組み、更なる配慮が行なわれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価作成を各職員に振り分けて実施し、管理者により集約されている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議では、状況の報告や災害対策等について意見交換が行われているが、現状として不定期での開催となる。地域や行政等、関係者との連携窓口として、また情報発信や意見交換を積極的に行い、地域における福祉拠点としての役割りを果していくためにも、運営推進会議の積極的な開催が求められる。近隣にある同法人の事業所との連携等、更なる工夫や働きかけにも期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8，9）
	家族が意見を言い難いということを理解しており、来訪時等のコミュニケーションの機会を大切にしながら、意見・要望の言いやすい関係づくり・環境づくりに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	散歩や買い物に出掛けた際のふれあいを大切にしている。併設する住宅やデイサービスから訪問を受けたり、また地域の中学校より職場体験学習等の受け入れを行っている。法人として、地域の夜間パトロール・防災訓練・公園の花壇作り等に積極的に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(□ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、母体となる医療法人の理念を基にした支援を行っている。5階建ての建物には、母体医院・デイサービス・バリアフリー住宅が併設されており、都市型地域ケアセンター「ベースキャンプ楽居」として、住み慣れた環境の中で暮らし続けることが出来るようサポートしている。		法人理念を基に、事業所独自の理念を創り上げていくことを検討しており、具体的な検討を行なっている。
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティング等において、理念に基づいた関わりとなるよう確認している。理念の1つとして「穏やかな死の援助」を示し、医療との緊密な連携の中で、ターミナルケアを支援している。開設時より継続して取り組んできており、職員・関係者へ浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物に出掛けた際のふれあいを大切にしている。併設する住宅やデイサービスから訪問を受けたり、また地域の中学校より職場体験学習等の受け入れを行っている。法人として、地域の夜間パトロール・防災訓練・公園の花壇作り等に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成を各職員に振り分けて実施し、管理者により集約されている。前回評価以降、プライバシーの確保(個人情報保護)への更なる配慮が行なわれている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、状況の報告や災害対策等について意見交換が行われているが、現状として不定期での開催となる。	○	地域や行政等、関係者との連携窓口として、また情報発信や意見交換を積極的に行い、更なるサービスの向上につなげていくためにも、運営推進会議の積極的な開催が求められる。近隣にある同法人の事業所との連携等、更なる工夫や働きかけにも期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修等の案内は受けているが、連携にはいたっていない。	○	行政担当者との連携を育みながら、これまでの歴史や経験を活かした情報発信や、コミュニティづくり・ネットワークづくりへの働きかけが期待される。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会に参加し、勉強会において共有している。今後も継続して学ぶ機会をもち、知識を深めて行きたいと考えている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多く、日々の暮らしの状況や健康状態について報告している。季刊にて「楽居便り」を発行し、写真とともに送付している。個別に連絡ノートを活用する場合もあり、家族との関係性を大切にしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を言い難いということを理解しており、来訪時等のコミュニケーションの機会を大切にしながら、意見・要望の言いやすい関係づくり・環境づくりに取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動が行われることもあるが、馴染みの関係への配慮から最小限となるよう努めている。また法人全体での関係づくりが行なわれており、やむを得ず異動や離職が発生した場合にも、サポートできる体制がある。		
5．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除を行なわないよう努めており、「人が好きな方」「やる気のある方」を求めている。パート職員を含む全職員が参加する勉強会（職員がテーマを決める）を毎月実施し、また資格取得を促しながら、向上心をもって働けるよう職能評価に反映させている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	高齢者の人権に関する研修への参加、及び啓発資料等を職員へ配布している。高齢者虐待防止や身体拘束についても、職員全員の意識を高める機会を確保して欲しい。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として年間勉強計画を作成し、全職員を対象として定期勉強会を毎月開催しており、また外部研修に積極的に参加できるよう参加費用等をサポートしている。運営者は、法人行事に向けての企画や、勉強会等での職員の姿勢を把握し、職能評価に反映させている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、企画・運営にも参画しており、今年度は勉強会の開催も担当している。今後は、実践的な相互交流が図れるよう、積極的な働きかけに期待したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設されている同法人の医院や高齢者住宅からの入居が多い。家族と連携しながら、見学や体験等を通じて少しずつ馴染めるよう、個別の状況に柔軟に対応している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの人生史を把握し、本人をより深く理解しながら、心身の状況に応じた穏やかな時間を過ごせるよう支援している。出来ない事を助け合うという視点でのケアを行い、入居者の方々との会話の中から学ぶことも多く、一人ひとりの存在がスタッフの支えとなっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、会話や表情の変化を大切に受け止め、入居者本位の意向を探求している。生活歴や職歴、趣味等、本人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を大切にし、カンファレンス等において関係者の意見を参考にしながら、一人ひとりの課題やケアを反映した介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、定期的な見直し、及び状況や要望の変化に応じた見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊や食事の提供に、柔軟に対応している。入院時には、医療機関や家族との連携により、早期退院に向けての支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体となる医療法人と併設されており、充実した医療連携体制が構築されている。週1回の歯科医の訪問診療があり、歯科衛生士による口腔ケアも実施されている。眼科・循環器科・皮膚科等についても訪問診療を受けられる体制があり、また通院介助も支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期に関する説明を行い、同意を得ており、心身の状況の変化に伴ない、家族・関係者との協議を重ねている。開設時より「穏やかな死の援助」を理念として示しており、これまでに多くの方のターミナルケアに寄り添っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回評価の指摘事項であり、プライバシーの確保に関する研修（社会福祉協議会）に参加する等、意識を高めている。尊厳に基づいた対応や声かけを大切に支援していくことに努めており、また記録等の個人情報の取り扱いにも配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活習慣にあわせて、起床・就寝・食事等の時間に柔軟に対応している。		
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は厨房での調理となり、職員も同じテーブルを囲み食事している。介助が必要な方が多く、食器や食事形状を個別に工夫し、一人ひとりの力を活かしながら、楽しく食事できるよう配慮している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日の設定はあるが、体調等にあわせて柔軟に対応している。入居者全員がリフト浴での対応となり、歌を歌ったり、手のマッサージを行なったりすることで入浴を楽しめるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しずつ重度化が進む中で、入居者の力を発揮する場面が少なくなってきているが、体調等に配慮しながら、職員とともに行なう事を大切に支援している。ホームの中やベッドの中で楽しめる事、季節を感じる事等、今後も継続して取り組んで欲しい。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子での外出が主体となり、体調や天候にあわせて、散歩や買い物に出掛けている。またベランダの家庭菜園に、季節の花や野菜を見に行ったり、階下のデイサービスに立ち寄ることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「ベースキャンプ楽居」の3階に位置しており、エレベーターを利用して出入りしている。通常は施錠されておらず、階下の医院が休診の場合等に、1階入り口を防犯のため施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。校区で行なわれる防災訓練には職員が参加し、地域住民との連携を図っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士による、栄養バランス等に配慮された献立が作成されており、食事・水分摂取量を記録し、健康管理につなげている。個別の状態に合わせて、食事や水分の形状に柔軟に対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感のある室内空間は、表情豊かな似顔絵や写真が飾られており、和みのある家庭的な空間となっている。床暖房の設置、ソファーや畳スペースの配置により、快適にすごせるよう配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	二人部屋となっている各居室からは、直接トイレに通じている。家族や職員による、その方らしい飾り付けがなされており、ベッドの中からも見やすいように時計を配置する等、個別の配慮が行なわれている。		